

は　じ　め　に

200 海里時代も今年で 3 年目を迎えることとなったが、当初心配された魚類不足も現実にはイワシ・サバの豊漁に加えて国民の魚離れが進み、これからの行政目標をいささか転換する必要がある。

もはや 200 海里は世界的に定着し海洋法会議で論ぜられた資源問題を乗り越えて政治的・経済的に大きく利用されてきつつある。

従って今後における水産行政は量産一辺倒ではなく、限りある資源の有効利用と経営安定のための施策が必要であり、殆ど未利用に近い外海養殖場を確保するため各種漁場の計画的利用と漁業経営形態の再検討など漁業制度の改善に期待するところが多い。

従って、事改めて 200 海里を論ずるまでもなく世界の水産は新たな局面を迎えた訳であるから試験研究も地道に、しかも情勢に適応した課題に取り組んでいかなければならないと考える。

昭和 54 年 3 月

青森県水産試験場長

馬　場　勝　彦